

令和3年度(前期日程)

入学者選抜学力検査問題

国 語

(国語総合・現代文B・古典B)

試 験 時 間 120 分

文学部, 教育学部, 法学部, 医学部(保健学科看護学専攻)

問 題	ページ
㊦～㊨	1～11

注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで, この冊子を開いてはいけません。
2. 各解答紙の2箇所受験番号を必ず記入しなさい。
なお, 解答紙には, 必要事項以外は記入してはいけません。
3. 解答は, 必ず解答紙の指定された場所に記入しなさい。
4. 試験開始後, この冊子又は解答紙に落丁・乱丁及び印刷の不鮮明な箇所などがあれば, 手を挙げて監督者に知らせなさい。
5. この冊子の白紙と余白部分は, 適宜下書きに使用してもかまいません。
6. この冊子をとめている針金は, 解答時に取りはずしてもかまいません。
7. 試験終了後, 解答紙は持ち帰ってはいけません。
8. 試験終了後, この冊子は持ち帰りなさい。

※この冊子の中に解答紙が挟み込んであります。

次の文章を読んで、後の問に答えよ。

「あの人はファッションのセンスいいね」とか「彼は独特のセンスを持っている」と言う。「センスがよい」は最大級の誉め言葉だと個人的には思っている。この日本語の「センス」という言葉は、「感覚」と訳されることが多いようだが、いわゆる暑い冷たいといった身体感覚や、幸せなどの感情の感じ方とはちょっと意味がちがいで、言語化することが難しい、暗黙の知識の塊のようなものだ。「カン」に近い。

①ことばの使い方にも「センス」が表れる。言語はコミュニケーションの道具ではあるが、ただおしゃべりをするためにことばがあるのではない。ことばは思考の道具であり、自分の思考を表現する大事な武器である。今、言語能力の四技能（話す、聞く、書く、読む）をバランスよく育てることが大事と言われているが、思考を深めるために特に大事なものは「書く」である。

※認知心理学では、知識を測るときに、測定の指標が「理解」なのか「産出」なのかを明記する。選択肢の中から正しいものを選ぶテストは「理解テスト」、質問に対して答えを書くテストは「産出テスト」である。

この二つが区別される理由は、測っている知識や認知処理の深さが大きく異なるからである。理解テストでは、答えは選択肢の中に示されているので、記憶からの想起は必要ない。選択肢を比べて明らかにちがうと思われる選択肢から順番に消去することもできるし、マジラわしの選択肢がヒントになることもあるので、かなり浅いレベルの知識でも正解できることが多々ある。対して産出テストは、自分で想起をしなければならぬし、多くの場合、出題者が意図する概念を知っているか否かだけでなく、言語を運用するために必要な、他のさまざまな要素を組み合わせないと答えを書くことができない。

私は小学生のことばの力を測るために、破る、割る、裂く、ちぎる、など類義語を集め、その行為を絵で示して、「新聞紙を」「います。」「おせんべいを」「います。」などの文の中にもっとも適切な動詞を書いてもらうという産出テストを作成し、実施した。どれも日常的な動詞なので、小学生は当然知っている。しかし、このテストでは結構間違える。ターゲットとなるのはみな似た意味の動詞なので、一連の類義語の意味がそれぞれどう違うのか、どのように使い分けられるのかをきちんと理解していないと正しい動詞を想起することができないからである。また、自動詞と他動詞を混同したり、低学年だと促音の表記を間違えて「おせんべいを」「わって」います。」「と書くべきところを、「われて」／「わて」などと書いてしまったりする誤答も目立った。

この結果は、ことばを「知っている」とこと「使える」ことは同じではないこと、定義的な意味を与えて暗記しても正しく運用できるようにはならないことをあらためて教えてくれる。「的確に使う」ためには単語や文法、表記について単に「知識をもっている」だけでなく、それらが統合され、状況、文脈に応じて自由に組み合わせ可能な状態になっている必要があるのである。

人の言語は、同じ内容のことも、多様な表現で言い表すことができるという特徴をもっている。

昨年、「名物ロボット、半年で『クビ』 大量失業の変な理由」という記事を新聞で読み、非常に興味深かった。長崎県のテーマパーク内で、「ロボットが初めて従業員として働いたホテル」として話題になったホテルの話である。フロントでの客との対応は限られているから、「朝食は何時?」「チェックアウトの時間は?」などの質問の定型文とその返答例をロボットに与えておき、文の変形パターンなどを学習する多少の学習機能を作りこんでおけば、ロボットは客に聞かれたことを認識し、応答できると考えたのだろう。

実際、客の質問の内容は、想定内のものだった。しかし、そのような質問でも、客一人ひとりがみな別の表現をするので、ロボットはお手上げになっただけで済んだそうである。

この記事は、同じ内容を伝えるにも、言語の表現のしかたにはほぼ無限のバリエーションがあるということ、単に定型の表現を暗記しても役に立たないことをあらためて気づかせてくれた。

これをさらに進めて考えれば、「ことばのセンス」というのは、そのバリエーションの中で、もつともその状況に適した言語表現ができるということと考えてよいかもしれない。似た概念に対して、人間は、繊細な意味の違いやニュアンスによって同じような概念を細かく言い分けることができるように、数多くの単語を創造し、複雑で豊かな言語体系をつくってきた。同じ内容のことを、単語の意味の知識だけでなく、構文や形態素の知識、語用の知識など様々な要素の知識を自在に組み合わせ、状況や自分の立場、伝える相手によって、実に多様に表現できる。それが人間の言語である。

AIは要素データをボウダイ^①にもっていても人間のように要素を自在に組み合わせることができない。だから多様で自在な言語表現の理解も産出もできないのである。

入試改革で記述式問題のことがずいぶん批判され、実施が延期されることになった。その最大の理由は、短期間に、採点者の間でも受験生の自己採点ともぶれずに客観的に採点することが難しいという懸念である。

今回の問題は、国語であれ、外国語であれ、表現の無限の多様性をもつという言語の性質と、その運用能力を誰がしても同じ評価ができるような客観的なテストで測るといふ入試の大前提との矛盾を露呈したように思う。国語の試験で記述式を採用するのなら、この矛盾をどのように解決するかをまず考えるべきである。

しかし、本来、学力は記述式で測るべきものである。国語も英語も、いくら頻度が低く、特別な文脈でしか使われない単語を知っていても、それを使って明確に意味が伝わる文章が書けなければ、それこそ「意味がない」。

私の認識では、教育改革の一環として、入試も断片的な知識を吐き出すだけのテストではなく、様々な知識を統合して思考し、言語で表現することができる総合的な能力を測るべきだという理念が記述式テスト導入の背後にあったはずである。この理念は認知科学が明らかにしてきた

知識と思考の性質にカンガみ、正鶴を得たものである。それだけに、今回の事態は残念でならない。

記述式試験をセンター入試で取り入れることの是非はともかく、すべての教科において、知識を統合し、思考し、言語表現する資質を育てることが教育の最終目標になるべきである。

スマホやパソコンでテキストを打っていると、ことば力がどんどん退化していく気がする。あの単語を打つと、次の単語が予測され、タップするだけで定型文が書けてしまう。これでは深い認知処理は起こるはずもない。このような現状で、国語は「ことばのセンス」を日本国民が身につける最後の砦とりでと言わなければならない。では、この「センス」を磨くため、国語教育は何ができるのだろうか。

良質の文章を読んだり聞いたりすることが必要なことは当然であり、そのために国語の教科書は良質かつ多様なジャンルの文章をバランスよく豊富に掲載してほしい。読書離れが進んでいる中で、国語教科書の二ナう役割はますます重要である。「ことばのセンス」を身につけるためには、文学、評論、随筆など多様な文章のサンプルを深く読み込むことが欠かせないからである。しかし、読むだけではセンスは十分に磨かれない。

これは料理を引き合いに考えるとわかりやすい。料理も「センス」が大事である。料理はいくらレシピを読んでも、実際に作ってみなければできるようにならない。毎日料理を作れば、それなりに、「切る」「煮る」「焼く」などの要素スキルは習得するだろう。しかし「センス」がなければ、レシピをアレンジして、自分独自の味を作ったり、自分で新しい料理を考え出したりすることはできない。ただ作って食べるだけでも料理のセンスは身につかない。作って味見をし、先生や先輩の作った料理と比較し、分析する。そういう修業を長年積み重ねて徐々に「センス」が習得される。

ことばのセンスも同じだ。テキストに知らない単語や表現があれば、辞書でその意味を調べ、様々な文を作ってみる。他にもっとよい表現ができないか考える。類義の単語や表現でも文を作る。いくつかの文を作り、比較してどの文がもっともその状況で効果的かを吟味する。認知科学では、このような比較の過程が深い認知処理と新たなドウサツ④をもたらし、ことを明らかにしている。このような、ことばの意味を調べ、使い、多様な表現を比較する経験の積み重ねで、ことばのセンスは徐々に、しかし確実に育っていくはずである。

もちろん高いレベルの「ことばのセンス」を高校生までに習得することを目標とすることは現実的ではない。これは一生向上し続ける類の能力である。しかし、国語教育は生徒がことばのセンスを自分で育て、ことばの宇宙を自分で探究していくきっかけと手立てを与える機会であってほしい。

(今井むつみ「ことばのセンスを育てる国語教育」による)

(注) 認知心理学……記憶、思考、言語、学習などにおける心の働きを研究する心理学の領域。
形態素………単語よりも小さな、意味を持つ最小の単位。

問一 傍線部㉗から㉙の片仮名を漢字に直せ。

問二 傍線部㉑における「ことばの使い方」の「センス」とはどのようなものか。筆者の考えを
わかりやすく説明せよ。

問三 傍線部㉒について、筆者がこのように感じるのはなぜか。本文全体を踏まえて、わかりや
すく説明せよ。

次の文章は、ある小説の一部である。主人公の讓吉は、学生時代から世話になった近藤夫人の訃報を受け、夫人の自宅へ駆けつける。この場面を読んで、後の問に答えよ。

讓吉は、電車に乗った。が、彼は先刻からの涙が、まだ続いて居た。三十に近い男が、電車の中で泣いて居る事は、決してよい外観を呈する訳ではなかった。で、彼は窓から外を見るような風をして、涙を時々拭って居た。

が、過去に於て近藤夫人から受けた、好意の数々を思い出す度に、稍々センチメンタルな涙が、後から後からと出て来た。實際夫人は彼に取って、此数年来生活の唯一の保証者であった。彼と夫人との関係は『与えられる』と云う関係に尽きて居た。彼は近藤夫人に対して、何等の恩返しもしなかった。ただ夫人の恩恵を、真正面から受け、夫に対して純な感謝の情を、何時迄も懐いて居りたいと、思つて居た。恩返しを試むる事は、或意味に於て恩を受けた者の、利己的な要求に基づいて居る事が多かった。恩を受けて居る事と、夫に対して感謝して居る事に依つて、其処に温い人情関係が作られて居る、若し恩を返してしまつたら、其処に何等の関係が生じて、以前の人情関係は、消滅してしまふのだ。また恩を返すと云う事は、恩人に何等かの事件、災害、不幸が起る事を、前提としなければならなかつた。従つて、恩返しのを機会を待つ事は、恩人に何等かの事変が起るのを待つのと、余り距たつた心持ではないと、彼は思つて居た。

こうした心持で、讓吉は恩返しなども、少しも念頭に置かなかつた。支那の書物にある『大恩は謝せず』などと云うのと、殆ど同じ心持であつた。只何時迄も、近藤夫人に対し、純な強い感謝の心を懐いて居たいと、讓吉は思つて居た。其上夫人は讓吉に取つて、過去の恩人であるばかりでなく、現在に於ても、讓吉の生活の、有力な保証者であつた。讓吉は、此半年ばかり生活が順調である為に、殆ど物質上の助力を、夫人に仰いだ事はなかつたが、讓吉は心の裡で、自分が疾病や災害で、生活の困難を來す時、必ず夫人が援けて呉れる事を信じて居た。夫は讓吉に取つて、実生活上の一つの強みであつた。讓吉が近藤夫人に対する感謝のもう一つの中心は、夫人が讓吉に払つて呉れた信頼であつた。讓吉は、最初高商の秀才と云う振込みで、近藤家の世話になる事になったのだが、讓吉は秀才でないばかりか、可なり怠惰者に近い方であつた。そして、毎年の学年試験には、漸く及第点を取る位であつたが、夫人は何時迄も、讓吉を秀才だと考え、頼もしい青年だと思つて居た。讓吉は夫人の死に依つて生活の保証の一つを失つたと同時に、彼の第一の知己を失つた訳であつた。

が、讓吉はあまりに、アな涙ばかりを出して居た。夫人の死が、讓吉に及ぼした打撃ばかりに就いて泣いて居た。が、夫人の死に就いて、讓吉よりもっと大きい打撃を受けた人がまだ沢山あつた。夫は無論近藤氏一家の人々であつた。家庭中心であつた近藤氏の家庭では、夫人は一家の太陽であつた。夫の近藤氏が、政党の首領として忙しい身体である為に、夫人は七人の子女から成る大きい家庭を、自分一人で支配せねばならなかつた。そして、夫人は母たる愛情を、七人の子供に平等に頒けて居た。讓吉はまだ十六にしかならない令嬢の雪子さんや、十一になつたばかりの瑠璃子さんが、夫人の死の為に受くる愛情生活の破産を考えると、自分

の悲しみなどは恥しいほど、小さいものだと思わずには居られなかった。

六本木の停留場で降り、龍土町の近藤氏の家の方へ歩いて居る時には、讓吉の涙は忘れたように、乾いて居た。

讓吉は、一家が涙で以って、濡れ切つて居る所へ、自分一人涙無しに行くのは何となく気が咎めた。夫かと云つて一旦出なくなった涙は、意識しては何うしても出なかった。

が、近藤家の勝手を知つた讓吉が、内玄関を上つて、夫人の居間であつた八畳へ行くと、其処には思い掛なく夫人の代りに、主人の近藤氏が羽織袴で坐つて居た。讓吉は悔みの挨拶をしようとしたが急に

イ

に起つた嗚咽の為に彼は、暫くは何うしても、言葉が出なかった。

讓吉は、自分の過度のセンチメンタリテイが、一種誇張の外観を、呈しはせぬかと思つと、可なり不快であつた。彼は出来るだけ早く自分の感情を抑制しようと思つたが、不思議に彼の嗚咽は続いた。而も、その嗚咽は不思議に、深い感情を伴つて居ない軽い発作で、而も余りに大げさな外観を持つて居た。彼は自分で自分を卑しんだ。見ると、近藤氏は右の手を、額に加えて、新しく滲み出ようとするとする涙を押さえて居た。平生殆ど喜怒を現した事のない主人の、男性的な涙を見た時は、讓吉は愈々自分のセンチメンタリテイを卑しんだ。夫でも、彼の嗚咽は尚無用に続いて居た。

「離れに置いてあるから、直ぐ彼方へ行つて呉れ。」と、主人は落着いた声で言つた。

彼は直ぐ奥の離れへ行つた。紫色の御召を着た令嬢の雪子さんと、瑠璃子さんが、泣顔を上げて讓吉の顔をチラリと見た。

何時もは、此の二人の令嬢を、世の中で最も幸福な女の子だと思つて居た讓吉は、今日は全く反対の考を懐かねばならなかつた。夫人の遺骸は、十畳間の中央に、裾模様すそもようの黒縮緬くろぢりめん、紋附つぎを逆さまに掛けられて、静に横たわつて居た。讓吉は、徐ろに遺骸の傍に進んだ。そして両手を突いて頭を下げた。口の裡で夫人から受けた高恩を謝した。涙がまた新しく頬を伝つた。夫人は急激な尿毒症に襲われ、僅か五時間の病いで瘞れたのであつた。

夫からの三日間、讓吉はお通夜の席に連つた。彼はお通夜などと言う仏教の形式に、反感を懐いて居たが、然し自分の悲痛や夫人に対する愛慕を、こうした形式で現わす外、何うとも仕様がなかつた。

本^②当に悲しんで居る人々と、社交上の義理で悲しみを装つて居る人々との間に交つて、讓吉は、自分一人の特有な悲しみを守つて居た。

(菊池寛「大島が出来る話」による)

(注) 高商……高等商業学校。東京の高等商業学校は現在の一橋大学。

問四 傍線部①について、讓吉は「恩返し」をどのような意味で「利己的な要求に基づいて居る」と考えていたのか。わかりやすく説明せよ。

問五 空欄 ・ に入る語として、最も適切なものをそれぞれ選び、記号で答えよ。

- a 利己的 b 発作的 c 社交的 d 抑制的

問六 傍線部②について、讓吉の「自分一人の特有な悲しみ」とはどのような悲しみか。わかりやすく説明せよ。

次の文章を読んで、後の問に答えよ。

※しもつけ
下野の国に男女すみわたりけり。年ごろすみけるほどに、男、妻まうけて心かはりはてて、この家にありける物どもを、今の妻のがりかきはらひもて運びいく。①心憂しと思へど、なほまかせて見けり。ちりばかりの物も残さず、みなもていぬ。ただ残りたる物は馬ぶねのみなむありける。それを、この男の従者、真楯といひける童使ひけるして、このふねをさへとりにおこせたり。この童に、女のいひける、「きむぢも今はここに見えじかし」などいひければ、③「なごてか、さぶらはざらむ。ぬし、おはせずともさぶらひなむ」などいひ、立てり。女、「ぬしに消息聞えは申してむや。文はよに見たまはじ。ただことばにて申せよ」といひければ、「いとよく申してむ」といひければ、かくいひける。

A 「ふねもいぬまかぢも見えじ今日よりはうき世の中をいかでわたらむ

と申せ」といひければ、男にいひければ、物かきふるひ去にし男なむ、⑤しかながら運びかへして、もとのごとくあからめもせで添ひるにける。

〔『大和物語』による〕

(注) 下野の国……………今の栃木県。

馬ぶね……………馬の飼料を入れる桶。

真楯といひける童使ひけるして……………真楯という名の童を使いとして。

きむぢ……………主に目下のものに対して用いる二人称代名詞。

しかながら……………そっくりそのまま。

あからめ……………目をそらすこと。よそ見。脇見。

問七 傍線部①について、(1)「誰」が、(2)「どういうこと」を「心憂し」と思ったのか答えよ。

問八 傍線部②、③、④を文脈に沿って現代語訳せよ。

問九 Aの歌について、次の間に答えよ。

(1) この歌には「ふね」「まかぢ」「うき」の三つの掛詞が含まれる。それらの掛詞は何と何を掛けているか、違いがわかるように答えよ。

(2) 「今日よりはうき世の中をいかでわたらむ」を現代語訳せよ。

問十 傍線部⑤のように男が戻ってきて、女を大切に暮らしたのは、女の態度と歌に込められた心情に心を動かされたからである。男が心を動かされた理由は、女のどのような態度と心情によるのか、文章全体を踏まえて答えよ。

四

次の文章を読んで、後の問に答えよ。ただし、返り点と送り仮名を一部省略してある。

政^ニ有^リ三^ニ品^一。王者之政^ハ化^レ之^ヲ、霸者之政^ハ威^シ之^ヲ、
疆^ニ国^一之政^ハ脅^ス之^ヲ。夫^レ此^ノ三^者各^々有^リ所^レ施^ス、而^シ化^ス之^ヲ
之^ヲ為^スレ^貴矣^ト。夫^レ化^レ之^ヲ不^レ變^ゼ、而^ル後^ニ威^シ之^ヲ、威^シ之^ヲ不^レ
變^ゼ、而^ル後^ニ脅^ス之^ヲ、脅^ス之^ヲ不^レ變^ゼ、而^ル後^ニ刑^ス之^ヲ。夫^レ至^ル於^ニ

□^ニ者^ハ、則^チ非^ズ王者之所^レ貴^ム也^ト。

是^レ以^テ聖^王先^ニ德^教而^後刑^罰、立^テ榮^恥而^明。

防^禁。崇^ニ礼^義之^節以^テ示^シ之^ヲ、賤^ニ貨^利之^弊以^テ變^ジ
之^ヲ、修^レ近^理内[、]政^ニ樞^機之^礼、壹^ニ妃^匹之^際、
則^チ下^ニ莫^シ不^ル慕^ヒ義^礼之^榮、而^シ惡^マ中[、]貪^乱之^恥。

其所^ニ由^リ致^ス之^者、化^使然^也。

(『説苑』による)

(注) 疆国……………「強国」に同じ。

徳教……………徳によつて教え導くこと。

防禁……………戒めること。

貨利……………財産や利益。

樞機……………扉止めのために門の中央に立てる低い杭。ここではそれよりも内側である
家庭内のこと。

壹妃匹之際……………「妃匹」は夫あるいは妻、「際」は間柄。ここでは夫婦関係をうまくまとめ
ること。

貪乱……………欲にふけること。

問十一 二重傍線部「化」と最も近い意味で「化」が用いられているものを以下の中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア 其民有聖人之教化。||
イ 天地感而万物化生。||
ウ 万物變化兮固無休息。||
エ 蛟千年化為竜。||

問十二 傍線部①を書き下し文にせよ。

問十三 空欄に入る最も適切なものを一つ選び、記号で答えよ。
ア 化 イ 威 ウ 脅 エ 刑

問十四 傍線部②「是以」について、

- (1) 平仮名で書き下し文にせよ。
(2) この語の意味として最も適切なものを以下の中から一つ選び、記号で答えよ。
ア この点について イ こういうわけで
ウ こうではあるが エ これ以上は

問十五 傍線部③とはどういうことか。全文の内容を踏まえて簡潔に説明せよ。

令和3年度熊本大学一般選抜(前期日程)「国語」
試験問題の入試過去問題利用について

令和3年度熊本大学一般選抜(前期日程)「国語」の試験問題の作成にあたり、以下のとおり入試過去問題を利用しました。

大問二

宇都宮大学 平成26年度 前期日程 国語 大問一を改変